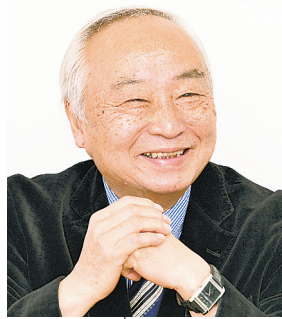


# 論説

## 宮武剛

557ページの分厚い「人口戦略法案」(日経出版)が東京・霞ヶ関(かきん)界隈(がいゑ)ではロングセラーになった。著者の山崎史郎という名前に覚えのある方も少なくないだろう。

厚生労働省で介護保険の創設に奔走した志の高い官僚である。社会・援護局長から内閣官房地方創生総括官へ転じ、2018年には



## 介護保険の推進者

リトアニア大使に起用され、自らの活躍を見ていく中で、自らの活躍を見いださねばならない将来世代の心情を」と訴える。

当時の壮行会で、筆者はこうあいさつした。第2次大戦時、リトアニアの杉原千勲(ちゆん)・領事代理はナチスの迫害から逃れるユダヤ人へのソ連邦などを經由できる通過ビザを独断で大量発給した。その歴史にちなみ「山

給付のポイントは、女性のライフコース別に、「就業継続コース」では、育児休業給付金(育児給付)を従前所得の現行67%から80%支給へ引き上げ、年額200万円の最低保障も設ける。

「ここで行動を起こさなければ、この国は人口減少という巨大な渦に沈み続けていく」と強烈な危機感を繰り返す。

# いま「子ども保険」提唱

崎さんは日本が生き残るための「21世紀の通過ビザ」を考えてください」と、

新財源は、18歳以上全員の医療保険に1人平均月額3600円の保険料を上乗

せして総額4兆1000億円の医療保険に1人平均月額支給され、安心して出産・育児ができる。

「この国は人口減少という巨大な渦に沈み続けていく」と強烈な危機感を繰り返す。

「人口戦略法案」は小説スタイルで、架空の首相は「人が減り続け、まちが消滅

円、企業拠出の保険料は従業員総賃金にに応じて払い2兆4000億円、これに既存の公費や社会保障負担を

「子ども保険」でなくとも財源確保策を打ち出せるかどうか。(本誌論説委員)

同会議の報告書は近く示される。注目すべきは、「子ども保険」でなくとも財源確保策を打ち出せるかどうか。(本誌論説委員)

みやたけ・ごう NPO法人福祉フォーラム・ジャパン副会長、学校法人・社会医学技術学院顧問

手当ても払う。

制度から排除されていた出産退職者、専業主婦、無業者らを包み込み、正規と非正規の格差を埋めていく。児童手当(月額)も高校修了まで第1子1万円、第2子3万円、第3子以降は1子6万円に引き上げる。

山崎氏は「あとがき」で「ここで行動を起こさなければ、この国は人口減少という巨大な渦に沈み続けていく」と強烈な危機感を繰り返す。